筑波技術大学　機関リポジトリ
National University Corporation Tsukuba University of Technology

英作文の指導

松藤みどり

Ⅰ. 筑波技術大学産業技術学部の外国語教育

筑波技術大学における外国語の指導は、障害者高等教育研究支援センターの障害者基礎教育実践部門が担当する教養教育系科目と、産業情報学科ならびに総合デザイン学科で指導される専門基礎科目としての技術英語がある。

1年	英語Ⅰ（必修４）	教養教育系
2年	英語Ⅱ（必修４） ｱﾒﾘｶ手話、ﾌﾗﾝｽ語、ﾄﾞｲﾂ語（選択２）	
3年	技術英語Ⅰ（前期必修１） 技術英語Ⅱ（後期選択１）	専門基礎
4年	指定なし	

英語Ⅰは一年生、英語Ⅱは二年生で履修し、その他の選択科目は二年生で履修することになっている。英語以外の外国語として、フランス語、ドイツ語、アメリカ手話のうちのどれかを選択することになるが、アメリカ手話を履修希望する学生が多いことを想定して、アメリカ手話のクラスは均質で３クラス開講される。学生は時間割の都合で３クラスのうちのどれかを選ぶことができる。フランス語、ドイツ語の担当者は聴覚障害者に対する教育経験がない非常勤講師が予定されているので、何らかの情報保障体制が必要となるであろう。

外国語科目としてアメリカ手話が取り入れられたことは歓迎すべき大きな変化である。「英語とアメリカ手話は完全に独立した別の言語である。」と主張しつつも、今までは敢えて英語の中でアメリカ手話を指導してきた。それは、他には指導の場がなく、頻繁に行われる国際交流にはアメリカ手話の知識が欠かせないものであったからである。外国語科目としてアメリカ手話が指導されている大学には北陸大学、四国学院大学、上智大学がある。聴覚障害者を専門に教育する筑波技術大学で、アメリカ手話が独立した正式な外国語科目として設けられたことの意義は大きい。

また、英語以外の音声言語を学ぶ機会ができたことも画期的なことである。これらの科目にどのような情報保障をするかが今後の課題である。英語はともかく、ドイツ語やフランス語となるとパソコンの入力をしてくれる技術者の確保が困難であろうが、隣接する筑波大学の留学生等の力を借りることも考え、来年の開講に備えたいと考える。

他大学でも聴覚障害者に対する情報補償は進んできている。しかしながら外国語は手話や字幕による情報補償が最も困難な科目として、取り残されているように見受けられる。

今年の一年生は、ある程度は外国語を耳で聞いて理解できる学生が増えた。学力や教育歴の多様化に加えて、聴力の面でもさまざまな学生に対応しなければならない時代が来た。

Ⅱ. 英作文とは

一年生で履修する英語Ⅰは、通年で週２コマあるが、購読と作文に分け、専任の教員が１コマずつ担当している。筆者は作文のほうの担当している。

国語で「作文」と言えば、題やテーマが指定され、自由な内容を本人の言葉で記述することが求められるであろうが、英語で「作文」と言えば、自由な作文と、いわゆる「和文英訳」をさすことになる。国語の作文のように自由に書

筑波技術大学　機関リポジトリ
National University Corporation Tsukuba University of Technology

く「自由作文」は、「和文英訳」の基礎ができた上で成り立つことである。

大学一年生の最初の授業でいきなり「自己紹介」を課しても、あまり筆が進まない。教師が自分のことを紹介して手本を示したり、自己紹介には何が必要か項目を挙げさせて確認し、枠組を示したりすると、いくらか書けるようになる。

趣味を表そうとして、単語がわからない。出身地を表す言い方がわからない、という問題が出てきて、「和英辞典」を調べ始める。最近の学生は電子辞書を持っていて、英和だけでなく和英も調べられる辞書を携帯していることが多い。

項目をどのように並べ、自分を魅力的にアピールするかは次の段階である。ここに３つの例を示す。

例１と例２はペンパルを求めるもの。例３はペンパルを選んで文通を申し込むものである。

例１）

My name is_____ _____.

I am a man.

My age is 19.

My hobby is sports and reading.

I am the second grade student.

例 2)

Name: _____ _____ _____

Short Name: Zel

Age: 20 yrs old

Year/ level: 3

Subject: COSK2-E

Hobbies: shopping, watching, reading, eating, cleaning and tennis

That's my favorite, because I do it a habit. But I sometimes buy shopping not much...I really like to read a book but it's hard by understand to read of a true deep word. I'm trying to be continuing read that I will do my best.

例３）

Dear Che-Che

My name is _____ _____.

I am 20 years old.

My major is information science.

My hobbies are trip, sports, and cooking.

I want to exchange with you.

I hope we will enjoy the e-mails.

Rogards,

Yoko

これだけの量の文を書くのに相当の時間がかかる。原因として次のことが考えられる。

１．単純な日本語を英語に直すことができない。（単語を知らないから）

２．日本語と英語の構造の違い、発想の違いが身についていない。（訓練不足）

３．言いたいことを英訳しやすい日本語に考え直すことができない。（国語力の不足）

自由作文の前に和文英訳の量的な訓練が必要であることを痛感する。

Ⅲ．和文英訳の訓練

今年の英語Ｉの作文では、単語の知識や国語力の不足があまりネックにならず、英語の構文を身につけることのできるテキストを選んだ。

朝日出版　Let's Write　登美博之　著

内容は次の 12 章から成っている。

５文型、進行形、助動詞、受動態、比較、完了時制、不定詞、現在分詞と過去分詞、動名詞、関係代名詞、関係副詞、接続詞

それぞれに基本的な文法事項についての説明と練習問題がある。英文の構造に合わせて日本語を配列し直した図式が提示され、使用される単語はすべて挙げてある。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

練習問題１　基本文１

（　　）内に日本語の語句を記入して英語の文

筑波技術大学　機関リポジトリ
National University Corporation Tsukuba University of Technology

構造を考え、さらに単語を並べかえて日本文を英語に直しましょう。

例：　彼は、ニュージーランドに住んでいます。（現在進行形を用いる）

[He, in, is, living, New Zealand]

（彼は）＋（住んでいます）＋（ニュージーランドに）.

→He is living in New Zealand.

1. ジムは、その年にアメリ合衆国で生まれた。

[born, in, in, Jim, that, the United States of America, was, year]

（ジムは）＋（　　）＋（　　）＋（その年に）.

4. 新型のテレビが、現在その電気会社によって開発されつつある。

[a, being, by, company, developed, electric, is, new, now, of, television, the, type]

（　　）＋（　　）＋

↑　　↑

（テレビの）　（現在）

（　　）.

この方法での効果

1. 文の要素と副詞、副詞句の区別がつくようになった。

2. 単語を調べるのに時間がかからないので、たくさん練習できる。

3. 副詞の位置（頻度を表す副詞は動詞の前、時を表す副詞句は文の最後、場所は時より前に示すなど）が意識付けられた。

4. 副詞句の構造（前置詞＋代名詞・冠詞+名詞）が意識づけられた。

5. 力に応じた小テストが受けられる（単語を示す問題と示さない問題の２種類を作り、個々の準備状況によって、選択できるようにしている。）

Ⅳ. 自由作文の必要性

筑波技術大学は国際交流の機会が多く、学生の交流も盛んである。直接対面してのコミュニケーションには手話が主な手段になるが、帰国後電子メールで文通を続ける学生も多い。

就職先でも英文メールをやり取りするような職種につくこともあり、社会的に通用するきちんとしたメールの書き方を指導する必要性も高まってきている。

また HP を開設して英文で内容を作ることもある。インターネット上には無料で使える自動翻訳装置もある。翻訳機の使用法も指導する必要があるかもしれない。

基礎的な和文英訳から自由作文までには幾らかのステップを踏み、段階的に指導する必要がある。

たとえば、読んだ文章に関する英語の質問に英語で答えるような訓練や、内容をまとめたり、感想を書いたりするような段階を経て少しずつ自由度を増すようにする。

例４）

This is a picture of Sadako on the bed in the hospital. And Sadako's best firend Chizuko is sitting by the bed.

Why is Sadako in the bed at the hospital? – Yesterday, Sadako was running in the schoolyard. Suddenly everything seemed to whirl around her and she sank to the ground. Mr. Sasaki took Sadako to the hospital and she was diagnosed with "Leukemia".

She was in Hiroshima when at atom bomb was dropped. And she became "Leukemia" as result of radiation form the bomb.

Sadako was an active girl and loved

筑波技術大学 機関リポジトリ
National University Corporation Tsukuba University of Technology

running. But she couldn't running. Sadako felt so lonely and miserable. Then, Chizuko visited Sadako's hospital room. She taught a way of folded a paper cranes for cheer Sadako. Cranes is supposed to live for a thousand years and she wish lively to Sadako.
Sadako was glad it. After that, Sadako folded the paper cranes at a thousand it. A thousand cranes and Sadako were known around Japan after Sadako died.

例 5)

The goodwill ambassador visits to Japan from TUT, in China.

April 30 Tue, 2002

The activity as a goodwill ambassador began in the afternoon.

Since I received Chinese people for the first time, I was a little bit uneasy whether I can communicate with them well.

We greeted Chinese people, and when I actually met and talked, I was able to communicate with them using kanji and some easy English words.

I finished the 1st day with expectation and anxiety for the activity over two weeks after this.

↑ Go to This Page's Top ↑

Visit of Japan Foundation (The Nippon Foundation of Japan), Asakusa, Tokyo Tower.

May 1 Wed, 2002

We went to Asakusa in the morning. I myself went there for the first time.

Although it seemed that the students of TUT were interested in all things there, they bought nothing since goods were expensive.

We took lunch in Toranomon Pastoral. But as I have a poor appetite, I didn't eat much. After lunch, we visited Tokyo Tower.

Although the weather was cloudy and the view was not good, I think that the students of TUT were able to know the rows of buildings of Tokyo.

The visit of Japan Foundation (The Nippon Foundation of Japan) made me tense anyhow.

I felt like I was out of place. I wondered why I was there.

↑ Go to This Page's Top ↑

http://www.pen.ntid.rit.edu/html/PEN-America/ikue/japan.html

V. 終わりに

日本語もままならないのに英語なんて、という姿勢では英語の指導は向上しない。できるだけ英語の必要性が感じられる状況を与えて、力に合わせて段階的に指導したいものである。